

健診センター

健診センター長 志田 勝義

日本人間ドック・予防医療学会 指導医・専門医、人間ドック健診情報管理指導士

1. 2025 年度総括

2025 年度の総稼働件数は 5,461 件で前年比 197 件の増加がみられます。

内訳は、半日ドック 3,570 件、脳ドック 97 件、一般健診 945 件、生活習慣病健診 849 件です。

総稼働件数の増加の要因は、脳ドックは減少しましたが、半日ドック、生活習慣病健診、一般健診の増加が減少数を上回ったことによります。これは、検査体制の見直しによる予約枠数の増加が要因と思われます。

2. 人員

脳神経外科/院長	星 誠一郎
健診センター/センター長	志田 勝義
健診センター	浅野 真美加
脳神経外科	西山 裕孝
小児科	三好 拓也

3. ドック健診実績

精密検査指示件数は、上部消化管内視鏡検査 94/2,985 件(3.1%)、上部消化管 X 線造影検査 72/857 件(8.4%)、心電図 278/5,721 件(4.8%)、胸部 X 線検査 137/5,677 件(2.4%)、胸部 CT 検査 7/125 件(5.6%)、腹部超音波検査 15/3,644 件(0.4%)、マンモグラフィー 33/415 件(7.9%)、乳腺超音波検査 12/798 件(1.5%)、子宮頸部細胞診 2/712 件(0.2%)、便潜血検査 182/4527 件(4.0%)です。

追跡しえた精密検査の結果での癌診断件数は胃癌 5 件、前立腺癌 4 件、大腸癌 2 件、肺癌 2 件、食道癌 2 件、乳癌 2 件、腎細胞癌 1 件となります。

諸検査数動向をみますと、健診者の希望に沿う形での検査体制の変更に伴い、上部消化管内視鏡検査は前年より 107 件の増加が認められます。それに呼応する形で上部消化管 X 線造影検査数の若干の減少を見ましたが、上部消化管検査を受けていただいた件数は増加しておりますので、健診者のニーズにあわせた検査体制の変更ができたと考えています。他の検査に関しては稼働件数の増加に伴い、不変から増加傾向です。

今回の当院の上部消化管 X 線造影検査における精密検査指示率は 8.4%となりました。これは、前年の 10.0%と同様に、日本人間ドック予防医療学会が推奨している 15%未満をクリアする結果となっております。しかし、他の検査と比較しますと 1 番高い値となっております。この理由は、学会の判定基準では慢性胃炎は C 判定とするところを、当院では粘膜萎縮の存在が明らかに疑われる慢性胃炎(萎縮性胃炎)に関しては、内視鏡による画像診断の必要性およびピロリ菌感染リスクを鑑みて精密検査指示とさせていただいている方針を継続しているためと思われます。

当院の精密検査指示率が高いということに関しては、2020 年に人間ドック健診施設機能評価受診の際に、医師サバイバーの先生との面談にて理由と意図を十分に説明させていただいて、ご了承をいただいております。

また、今回の癌診断件数においては、胃癌が 5 件と最多となっており、死亡率は下がってきているとはいえ、現在も十分に注意をしていかなければいけない癌腫であることには間違いありません。

引き続き当院といたしましては、将来的に胃癌発症リスクが高いと思われる症例を積極的に内視鏡検査に誘導していくことにより、胃癌撲滅へ寄与していきたいと考えております。

今回、胃癌以外の追跡しえた消化管癌診断数では食道癌 2 件、大腸癌 2 件を数えました。食道癌は当院ドック健診では、あまり遭遇しない癌腫ではありましたが、2 件とも早期癌で、内視鏡検査での発見でした。食道癌は胃癌および大腸癌に比して、壁深達度が浅くとも容易にリンパ節転移を起こしやすい癌腫であるため、早期発見による早期治療が必要不可欠な癌腫の一つと考えられます。この状態での発見となると、やはり内視鏡検査によるスクリーニングが必須と考えられるため、今後も積極的に内視鏡によるドック健診をお勧めしていきたいと考えております。

他にも、2025 年度も様々な悪性腫瘍の存在が疑われました。前立腺癌は 4 件を数え、全て PSA 高値指摘からの精査の結果でした。そのうち 3 件は結果到着後に当院泌尿器科を受診され、速やかなる生検での確定診断ののちに、しかるべく医療機関への速やかなご紹介の後に適切な治療をお受けいただいたという報告をいただいております。

このことは健診部と診療部との連携を密にすることにより、「健診センターは、早期発見にとどまることなく早期治療にまでつなげてこそが二次予防機関の役割である」という当院健診センターの基本方針が実践できているものと考えております。今後も継続して取り組んで行きたいと思っております。

また、当院では診療該当科のない癌腫症例におきましても、他医療機関受診の後に適切な治療をお受けいただいたと報告を受けております。ご協力いただきました近隣の医療機関の皆様に御礼を申し上げます。

4. 2026 年度の方針

以前より、当院ドック受診後の精査未受診率の減少を目的とした既存のフォローアップ体制の改善と新たなフォローアップ体制の確立を目的として取り組んでおり、2024 年度よりは消化器領域に特化したフォローアップ外来を開設させていただきましたが、診療体制の変更により 2026 年度からは中断せざるを得ない状況となりました。

しかし、健診者本位の最良の健康診査の提供を目指していくという、当院健診センターの基本方針を推し進めていく方針は変わることはなく、且つドック健診を受けた健診者が、当院に精密検査を目的として受診しやすい環境を構築していくことは、引き続き推し進めて参りたいと思っております。

当院健診センターは、今後も受診者の皆様に健康で、且つ実りある人生を提供するために、職員一同努力していく所存です。